主日の福音 2026/10/25(No.1439)

年間第 30 主日（マタイ 22:34-40）

律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている族

私が好きなプロ野球、今年のドラフト会議は 10 月 22 日に開催されました。それぞれ、指名された選手は交渉権を得た球団でしっかり活躍してほしいと思います。

さて、「野球の中で、もっとも重要なのは何ですか？」と問われたら、どう答えるでしょうか。野球には守備と打撃があり、どちらも必要です。でもどちらか一方だけを大切にすればよいかというと、そうではありません。そのように、どれか一つだけを大切に、といかないのは私たちの生活もそうです。では、神を信じて生きる私たちにとって、何よりも大切なことは何でしょうか。

今週の福音朗読に登場する律法の専門家の問いも、イエスにあえて「最も重要な掟」を答えさせて、「これこれの掟を大切にすべきだ」と言うのを待ち構えています。そうすれば、「イエスは律法全体を大切にしていないのだ」と訴える口実を拾うことができるからです。しかしイエスは、そうした隠れた罠を見事にかいくぐります。

「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を、自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」この原則に、律法全体と預言者がぶら下がっているのだから、原則を守って生きることで、すべての掟を大切にする生き方ができると、イエスはおっしゃいます。

さらに、質問した律法の専門家は「律法の中で、どれが」とだけ問いました。彼らにとっては律法を一点一画もおろそかにしないこと、これが何より大切なことでした。しかしイエスは、「律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている」と答え、律法の専門家のもくろみは失敗します。「律法全体と預言者」とは、神がイスラエルの民に示してこられた御心、その歩み全体を指しています。

イエスは、律法を捨ててよいとおっしゃったのではありません。律法の一つ一つを、神への愛と隣人への愛という根本から理解し、生きるように招いておられるのです。イエスはほかの場面でも、律法が人を苦しめるためではなく、人を生かすためにあると示されました。「安息日は人のためにある」という言葉にも、その姿勢が表れています。律法の本来の精神である「神への愛と隣人への愛に立ち返ること」それが、イエスの示された道なのです。

イエスは、人々を掟を守れるかどうかという不安だけに閉じ込めるのではなく、神を愛し、隣人を愛するという、信仰の根本へと人々を招かれました。律法を忠実に守ろうとすること自体が、間違っているわけではありません。神の言葉を大切にすることは、信仰者にとって大切なことです。しかし、掟を守ることが目的になり、そこに込められた神の愛や隣人への思いやりを見失うならば、律法は人を神に近づけるどころ

か、人を裁く道具になってしまいます。

これは、当時の律法の専門家たちだけの問題ではありません。私たち自身にも問いかけられていることです。私たちはイエスの生き方、つまり生活と密接に結びついている掟を二つの大原則に沿って生きる人になるか、それとも掟の一つ一つに触れたか触れなかったかをビクビクしながら生きる人になるか。選ぶ必要があります。もちろん私たちが選ぶのはイエスの示された大原則に沿って生きることです。

現在のカトリック教会にも、教会法典という分厚い教会法の書物がありますが、その一つ一つに触れたか触れなかったか、そんな生き方はきっと窮屈でしょう。教会の法律は、神への愛と隣人への愛の具体的な現れです。神が人となって生きてくださった。その姿を見倣うならば、それは必ず、神を心から愛し、隣人を自分のように愛することにつながるはずです。神が人となって近づいてくださった。その神の愛を感じて、私たちは隣人を愛することができるのです。

10月25日、私たち下五島地区では大切なミサがささげられます。「牢屋の窄殉教記念ミサ」です。神が人となって近づいてくださった。殉教者たちはそのことを誰よりも深く理解していたので、迫害者をも隣人として自分のように愛し、命をささげることができました。

殉教者たちの愛は、私たちには簡単にまねのできない崇高な愛に思えるかもしれません。ただ、神を愛し、隣人を愛するという出発点は、私たちの日常から始まります。自分と意見の違う人をすぐに裁かないこと。自分を傷つけた人を憎しみだけで見ないこと。助けを必要としている人に手を差し伸べること。そうした一つ一つの行いの中に、殉教者たちが生きた愛につながる道があります。

牢屋の窄の殉教者たちを記念するこの日、私たちもまた、神からいただいた愛を、身近な人々へと届けることができるように祈りましょう。ぜひこの日は、牢屋の窄での殉教者の取り次ぎによって勇気をいただき、これまで以上に神と隣人を愛することができるように願いましょう。

同じ信仰の先祖が、これほどの愛を示しました。今日、私たちも殉教者に倣う一日としましょう。彼らほど、「律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている」このことを理解している人たちはいないのですから。

諸聖人(マタイ 5:1-12a)